

「なんか汚かったんで気になって」

私が楽しみにしている二年の学年掲示がどんどん増えています。作っているK教諭の努力はもちろんですが、素敵な姿をどんどん増やしている二年生の生徒にも感激しています。「次は自分たちの番だ」という彼らの意気込みが感じられます。

昼休みの掃除を初めとして、トイレの

スリッパそろえ、校内の整理整頓、建設的な話し合い、積極的な質問や発言など、今年二年生がすばらしい姿をたくさん見せています。北中初年度を知らない彼らですが、昨年度の卒業生と今年度の三年生のバトンパスをしっかりと受け取って、来年度に向けて走り出そうとしているようです。

数多く張られた写真の中の一枚と、そこに添えられた言葉に、私は特に注目しました。それは手洗い場を掃除する二年生の写真と、K教諭が聞き逃さなかった生徒のひとことです。

「なんか汚かったんで気になって」

何気なく発せられた言葉でしようが、この言葉こそ「主体性」の原点だと私は思いました。「主体性」と聞くと、なんだか難しいことのように思えますが、実は私たち人間の心のありようだと言えます。それを見事に表しているのが、このひとことです。

「なんか汚かったんで」……ここから「主体性」がスタートです。

つまり、気付けるかどうか。気付ければ、その後に行動が生まれる可能性が出てきます。気付けなかったら、それは出てきません。

一月二十四日のメッセージの最後に書いた「雑巾の掛け直し」が、まさしくそれです。多くの人間が雑巾の前を通過していますが、素通りする人は気付けていない人です。その時点で、「主体性」が生まれる可能性はゼロだと言えます。

「気になって」……（気になって）掃除をしています」が省略されています。つまり、先に述べた気づきが行動に結び付いたのです。この段階に至った時に、「主体性」が発揮できたと言えます。

これもまた一月十四日のメッセージに書きました。気づきと行動の間には「とてつもなく高いハードル」があります。そのハードルを飛び越える原動力が「気になること」です。そして、気になることがその後に生まれる行動に結び付くのだと私は思います。

「なんか汚かったんで気になって」と同じように、「わからないので気になって（質問しました）」、「乱れていたので直したくなって

（整頓しました）」という心が増えれば、北中はもっともっと素敵な学校になっていくでしょう。今はコロナ対策で掃除をしています

んが、コロナが終息しても掃除の要らない学校になったら、世間ではスーパードエコスクールぐらい話題になるかもね！（二月十五日記）

